

第三者評価結果報告書（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

一般社団法人香川県福祉サービス評価機構

②評価調査者研修修了番号

H23-Y014

R3-Y001 (S2021088)

③施設名等

名称：	恵愛学園
施設長氏名：	朝田 真悟
定員：	45 名
所在地(都道府県)：	香川県
所在地(市町村以下)：	東かがわ市白鳥956番地
T E L：	0879-25-2067
U R L：	https://www.keiaifukushi.jp

【施設の概要】

開設年月日	1952/6/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人恵愛福祉事業団
職員数 常勤職員：	21 名
職員数 非常勤職員：	5 名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	6 名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	5 名
有資格職員の名称（ウ）	公認心理師
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（エ）	学校教諭
上記有資格職員の人数：	5 名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（カ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2 名
施設設備の概要（ア）居室数：	児童養護施設：39部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	談話室、洗濯洗面室、便所、浴室、保母室、台所、食堂、居間、倉庫、母子保護用居室ほか
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>【理念】</p> <p>法人理念 「生かせいのち」利用者の意向を全面的に尊重し、地域社会において自己表現できるように支援する。</p> <p>施設の理念 法人理念、「生かせいのち」に基づき、入所児童の最善の利益を保障し、その福祉を積極的に増進する。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の権利擁護を基本とした支援 2. 家庭支援と子育て支援 3. 危機管理体制の充実 4. 地域の資源としての、関係機関との連携
--

⑤施設の特徴的な取組

・運営母体の法人にて子ども園・障がい児・者福祉事業を行っているため、施設は子育てに関して複数の相談窓口を設けている。
 ・障がいを持つ子どもたちの施設内における支援については、運営母体の法人が運営する障がい児・者福祉事業のノウハウが生かされ、障がい児・者福祉事業に配属されている障がい福祉部門の職員の支援を得ることができている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2021/12/16
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2022/6/14
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

【特に評価の高い点】
 <子どもの意見や相談を受けられるよう、子どもの話を聞く体制が確立している>
 施設は、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った養育・支援を行うために、個人別・生活単位別・年齢別等の複数の単位毎に「話そう会」という子どもの話を聞く機会を設けている。話そう会は、子どもの話を聞き、また相談や困難を職員と一緒に話し合える場となっており、利用者アンケートから、子どもがそれを貴重な場であると捉えている様子が見受けられた。施設は、話そう会を実施した都度適切に記録を管理し職員間で情報を共有することで、子どもの意向を尊重した個別の養育・支援の実施に生かしている。

【改善が求められる点】
 <職員の業務多忙により、職員の心身の負担と子どもへのきめ細かな養育・支援の持続不能が懸念される>
 今般の子どもが抱える事情の複雑さや児童養護施設に求められる役割と責任に真摯に対応しようとするあまり、職員の業務多忙と人材不足を感じていることが推察された。今回の第三者評価調査では、職員の心身の負担の大きさと、子どもは日々の生活の中で職員とずっと話をしたいが職員が忙しそうだと、むしろ子どもが職員を心配する様子が見受けられた。今後も子ども一人ひとりに応じたきめ細かな養育・支援を展開していくために、施設には、人材の補充や職員の心身の負担軽減に向けたなお一層の取り組みが行われるよう期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の受審が3回目になると思いますが、これまでの受審結果から改善されている点と今後も引き続き改善に向けて取り組んでいかなければならない点が確認できました。ここ数年における社会的養護施設の形態や役割の変化も大きく今後も見直が必要な点多々あります。
 今回の受審で評価していただいた内容をしっかりと受け止め、職員間で共有し、これからの支援につなげていきたいと思えます。

⑨第三者評価結果

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
<p>法人の理念は、年間計画概要、施設案内およびホームページに明記している。法人の福祉理念に基づき施設独自の理念と基本方針を策定し、それを年間計画概要に記載している。</p> <p>子どもと保護者に対しては、入所前の見学時や入所時に施設案内を配布しその内容を説明する方法により周知を図っている。職員に対しては、年間計画概要を配布し、毎年、年度始めに会議において周知し理解を促している。</p>		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
<p>全国児童養護施設協議会からの情報、外部研修や関係機関との会議等への参加により、社会福祉事業全体の動向や施設経営を取り巻く環境やその変化を把握している。定期的な養育・支援のコスト分析等は運営母体法人にて行っているが、今後は、施設経営の安定性の確保や将来展望を描くためにも、施設の組織体制や設備の整備、財務状況等について、施設がより積極的に現状分析を行う等、なお一層の取り組みに期待したい。</p>		

②	<p>3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	b
		○
		○
		○
		○

【コメント】

運営母体の法人にて毎月開催する連絡会で、組織体制や財務状況について課題を把握し、課題の解決を検討している。理事会や評議会に法人全体の予算や事業計画を報告することにより、役員間でも経営状況や改善すべき課題について共有している。施設の職員に対しては、法人で協議した情報を施設内の会議で共有することとしているが、今後は、経営課題の解決・改善に向け施設内においても活発な意見交換や改善策の実施を行う等、施設として具体的な取り組みが行われることに期待したい。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	<p>4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	a
		○
		○
		○
		○

【コメント】

理念や基本方針を軸に中・長期の家庭的養護推進計画を策定し、小規模施設の建設や施設運営等について具体的な方針と目標を掲げている。家庭的養護推進計画表の内容は、小規模施設の設置数や定員数の具体的な数値を掲げることにより、課題の解決・改善に向けて実施状況の評価を行える内容となっており、実施状況に応じて計画の見直しを行っている。理念や基本方針の具現化を図るための事業が効果的に実施できるよう、計画策定と実行に努めている。

②	<p>5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画（事業計画と収支予算）に、中・長期計画（中・長期の事業計画と中・長期の収支計画）の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	b
		○
		○
		○
		○

【コメント】

単年度の事業計画は、法人が毎年作成する年間計画概要の中に施設毎の「運営計画」として策定しており、中・長期計画の内容が反映されたものとなっている。運営計画では、重点支援目標や子どもへの支援の目標や事業の内容、支援のポイント等について掲げており、単なる「事業計画」となっていないことは特に評価できる。今後は、具体的な数値目標や詳細な成果を設定することにより、なお一層充実した事業計画が策定されるよう期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、毎年度末の施設内の会議において見直し、変更箇所について職員の意見を聞き、それを踏まえて施設長が次年度の事業計画を策定している。策定した事業計画は、年度始めの会議で職員に周知し理解を促している。今後は、計画の妥当性や有効性について検証できるよう、実施状況の確認や評価をあらかじめ定められた手順に基づき行うことにより、なお一層実効性の高い事業計画が策定・運用されることを期待したい。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

子どもに対しては、事業計画の中から子どもの生活に直接かわる内容を抜粋し、話そう会(子ども会)にて説明している。保護者に対しては、毎月の便りにて行事や子どもの様子を伝えている。今後は、事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成する等の工夫を行い、子どもや保護者が事業計画への理解を深め、施設での生活について見通しを持てるような取り組みに期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	第三者 評価結果
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

各ホームでの会議や全体会議等で、養育・支援の内容についての話し合いや見直し、検討を定期的に行っている。第三者評価を定期的に受審し、定められた評価基準に基づいて年1回自己評価を行っているが、評価結果についての十分な検討や分析には至っていない。今後は、評価結果を分析・検討する場を施設として位置づけることにより、評価結果が養育・支援の質の向上に役立てられることに期待したい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

第三者評価の評価結果を受けて施設が把握した課題については、会議によって職員が共有し、職員参画のもと改善策を検討し、計画的に改善に取り組んでいる。今後は、評価結果を分析した結果やそれに基づく課題を文書化するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行う仕組みを整えることで、より実効性の高い改善策を実施できるよう期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長は、自らの役割と責任について年間事業計画概要に明記することで職員に表明している。年間事業計画概要には、職務分掌と責任者名一覧および役割別責任分担表を明記し、単年度の事業計画の概要の一つとして年度初めに職員へ説明し、周知を図っている。有事における施設長の役割と責任についても、各種対応マニュアルにて、有事の責任体制や職階別の対応方法を詳細に定めている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、施設の健全な運営に必要な法令等を十分に理解しており、利害関係者との適正な関係を保持している。法令遵守の観点での研修や勉強会についても、関係機関の会議へ参加したり、社会的養護や施設長に求められる役割について研修を受講することで日々理解に努めている。職員に対しては、施設内の各種会議において遵守すべき法令等を周知・説明し、理解を促している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、養育・支援の質の現状について、日々の連絡会により把握し、職員が行き詰まりを感じている場合には随時個別指導を行っている。各職員へ年に1回以上の個別面談を実施するほか、管理職からも現場の様子を聞く機会を意識的に設ける等、養育・支援の質の向上に指導力を発揮している。施設長は、施設長含め全職員が計画的に施設内外の研修を受講できるよう、年間研修計画を立てて実行することにより、施設長が中心となって専門性の向上に努めている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は、職員の専門性と経費のバランスを踏まえて人員配置や職員の働きやすい環境整備を行っている。経営の分析や改善については運営母体の法人が中心となって行っているため、施設長は子どもの直接的な養育・支援の観点から施設運営を行っている。今後は、経営の現況について施設長がよく把握したうえで、改善や業務の実効性向上の要否について、施設全体で検討が行われるような組織が醸成されるよう、さらなる取り組みに期待したい。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

年間事業計画概要にて理念・基本方針および「法人職員のあり方」を明記し、求める人材を明確にしている。人材育成は、人材育成委員会を中心に計画的に実施している。採用活動は、職場オリエンテーション委員会を設置し、効果的な方法を常に検証しながら実施している。加算職員の配置についても、基幹的職員や家庭支援専門相談員等を配置し、人員体制の充実に努めている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

年間事業計画概要に、児童憲章、全国児童養護施設協議会倫理綱領および「法人職員のあり方」を明記し、職員が目指すべき将来像を表明している。施設長は、個別面談を実施することにより職員の意向や意見を把握し、その総括を理事長へ報告しており、人事考課については運営母体の法人が総合的に行っている。運営母体の法人では、把握した施設や職員からの意向・意見をもとに人事管理についての改善策を検討し、実施している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

就業規則に基づき労務管理を行い、責任体制を明確にしている。個別面談の機会を設け、休暇制度の充実等職員の心身の健康と安全の確保に努めている。今後は、職員の希望を反映し、ワーク・ライフ・バランスに配慮した総合的な福利厚生制度を実施するとともに、運営母体の法人の支援を得て人員を充足させることで、人材の確保や定着を図ることにより施設の魅力を高め、働きやすい職場づくりに取り組むことを期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

「法人職員のあり方」として法人が期待する職員像を表明し、個別の面談や総括および日々のコミュニケーションを通じて職種別の業務の達成度や課題の確認を行っている。今後は、個別面談の内容の見直しや職員毎の目標を設定し確認する体制を整える等、職員一人ひとりの養育・支援の質の向上へより一層の取り組みが実施されることを期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

期待する職員像については、これまでの項目でも述べたとおりであるが、施設の目指す養育・支援の方向性や内容についても、年間事業計画概要に施設の運営計画として具体的に記載し職員に明示している。職員の教育・研修計画については、運営母体の法人が組織する人材育成委員会が中心となり、職員の経験に応じて計画を策定し、随時検討を重ねながら実施している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員の教育・研修の機会の確保については、運営母体の法人が組織する人材育成委員会が中心となり、法人内研修のほか、職員の専門性に応じた外部研修や新任職員へのOJT等の機会を確保している。外部研修へ参加した職員からは、受講内容を報告・共有させることで職員間の周知・理解を促している。今後は、職員の専門性や施設の組織力のさらなる向上のため、スーパービジョンの体制の確立に期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の受け入れについては、実習の受け入れに関するマニュアルに基づき、受け入れ前に事前オリエンテーションを実施することで実習のしおりの読み込みと実習の心得等を周知し、実習中は毎日担当職員と振り返りを行い、最終日には実習全体の反省会を行う等、養育・支援の専門職の研修・育成についての体制を整備している。また、実習生の所属学校と連携し実習内容を検討する等、実習生の研修・育成に積極的に取り組んでいる。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の意味や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】		
ホームページに掲載する方法によって、施設の目的、法人の基本理念、養育・支援の内容、事業計画、決算報告、苦情・相談の体制・内容が公開されている。第三者評価の受審結果も県や全社協のホームページにて公開している。また、機関誌を作成配布することで、入所する子どもやその保護者のみならず社会・地域に対して施設の存在意義や役割を明示している。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】		
就業規則に付随する各種規程や業務分掌に基づき職務分掌と権限を明確にし、職員に周知している。法人内監査を行い定期的に運営の確認をしているほか、毎年香川県の監査を受け、指摘事項については改善を行っている。財務状況についてはホームページや年間事業計画概要に適宜掲載している。公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みが組織的に行われている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
子どもと地域との交流を広げるため、地域とのかかわりの必要性や繋がり大切さについて説明し、外部のボランティア活動や地域行事に施設の子どもたちが積極的に参加するよう働きかけている。買い物や遊びの日常的な活動の範囲は、施設内の規則を基準に子どもの年齢や成長に合わせて柔軟に設定し、小学校高学年以上の子どもはそれぞれが欲しいものを小遣いから購入できるようにしている。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティア受け入れに関する基本姿勢はホームページに明記している。ボランティアを受け入れること目的やその手順、ボランティア実施時の配慮等の留意事項を明文化し、それに基づき受け入れ前の登録や事前説明に関する説明を行っている。今後は、地域の学校教育への協力について基本姿勢を明文化することで、ボランティアの受け入れや学校教育への協力を通じて施設が持つ機能を地域へ還元できるよう、さらなる取り組みに期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

地域の関係機関・団体と定期的な連絡会を開き、共通の問題について協働して解決に取り組んでいる。県内のアフターケア事業所と連携し、退所後の子どものケアに取り組んでいる。子どもへの社会資源の明示は子どもの年齢や能力に応じて個別に行っているため、統一したリストや資料を作成することはしていないが、今後は、職員によって明示する内容に差異が生じないよう留意しつつ、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料が作成されるよう期待したい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

児童相談所や小学校等の関係機関・団体と連携し、要保護児童の把握や検討会を実施している。地域の各種会合への参加および地域住民との交流活動等を積極的に行い、入所している子どもを取り巻く環境や地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。これらの活動によって把握された情報は職員間で共有されており、地域社会の一員として施設運営を行う意識づくりの基盤となっている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

施設は、地域の行事への参加や施設内の行事に際しての園庭開放、自治会と防災協定を締結し災害発生時の避難場所の提供を行う等、地域の福祉ニーズを把握し協力体制を整えるよう努めているが、十分ではないと考えている。今後は、把握した福祉ニーズに基づいた具体的な事業や活動を明示することで、施設が有する専門知識や情報を地域に還元できるよう、さらなる取り組みに期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

年間計画概要や個別の冊子に「法人職員のあり方」として、施設全体で子どもを尊重した養育・支援を行うための標準的な方法を明記している。職員に対しては、子どもの尊重や基本的人権への配慮について定期的に必要な研修を受講させ、周知や確認を行っている。また、定期的に子どもと話し合う「話そう会」を開き、子どもからの意見を把握し尊重するよう努めている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

職員に対して、子どものプライバシーに配慮した養育・支援を実施できるよう、学園会議や日々の連絡会を活用して標準的な養育・支援の方法の分析や検討を行っている。子どもに対しては、権利ノートを活用して伝えるよう努めている。今後は、子どものプライバシー保護に関する規程を再確認し、および研修の実施状況を評価することにより、規程や研修が子どものプライバシー保護に関する職員の理解を図るうえでより実効性の高いものとなることを期待したい。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設が作成する広報誌にて、事業内容や子どもの様子を掲載している。広報誌は、季節行事の様子を写真付きで掲載し、子どもにも分かりやすい内容となっており、ホームページからも閲覧することができる。入所前の施設見学のほか、児童相談所等の施設外で説明する場合にもパンフレットを使用して写真を見せながら説明することとしている。子どもや保護者から要望があった場合には、その諾否について十分に検討したうえで丁寧に説明している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所の同意にあたっては、児童相談所と連携し、入所前見学やパンフレットを用いた説明等、施設が行う養育・支援について理解を促している。施設は、入所後の養育・支援の過程についても、保護者へはお便りや広報誌を通じて伝えたり、行事の前にあらかじめ説明し同意を得られるように努めているが、意思決定が困難な子どもや保護者に対する配慮については、標準的な方法を整備することが今後の課題だと考えている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

可能な限り子どもが年齢や個々の特性に応じて過ごせるよう、入所背景や子どもへの理解に努めている。措置変更等により子どもが施設を退所する場合には、措置変更後の施設や保護者等に対し、施設での生活の様子や配慮について十分に説明するよう努めている。アフターケアについては、退所後最低一年間は継続するよう計画を策定し実行しているが、今後は、アフターケアの計画を子どもに対しても文書を交付して理解を促す等、なお一層の取り組みに期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

毎月1回、子どもの要望や意見を聞くことと職員側の要望を伝える場として、定期的には話そう会（子ども会）を開催している。話そう会は、ホーム全体や年齢、個別の複数の単位で行っており、子どもが生活していく中で抱いた不満や意見を吸い上げ、各ホームに合ったルール作りや課題の改善に努めている。苦情を把握した場合にはホームページで公開するとともに分析・検討を行い改善に努めている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決に向けて、話そう会や意見箱を設置することで子どもの苦情を把握し、子どもからの苦情や意見について改善に努める体制を確立している。また、運営母体の法人にて設置している意見希望対応委員会や第三者委員会の仕組みについて、子どもや保護者に文書や口頭で周知している。今後は、保護者へのアンケートや保護者会等の実施および内容の充実化を図ることで、特に保護者に対する苦情解決についてなお一層の取り組みを期待したい。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

要望や苦情を述べる方法は、意見箱への投函もしくは職員へ直接訴えることとしており、意見箱はホーム以外の職員が確認することとなっている。その体制については話そう会や入所時および毎年の体制発表時に子どもへ周知しているが、利用者アンケートからは子どもの理解が十分ではないと推察される。今後は、掲示物や説明方法により工夫を凝らすことで、施設の取り組みに子どもや保護者から十分な理解が得られるよう期待したい。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

意見箱や日々のかかわりから得た子どもの意見に対して、日々の連絡会や学園会等で常に検討・改善を行い、子どもに説明するよう努めている。その対応に時間を要したり外部の協力が必要な場合等には、子どもに了解を取るようになっている。子どもの意見への対応と養育・支援への反映についてはルール化しているが、今後は、標準的な対応方法の定期的な見直しを行うことで、あらためて職員間で共通認識が図られることに期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

危機管理委員会を設置し、事故・災害発生時の各種対応マニュアルの見直しや施設の定期点検、訓練・研修等、事故防止・対応方法のための取り組みを実施し、その実効性の確認を組織的に行っている。また、日々の連絡会にてヒヤリハットの把握と周知を行い、職員間で共有している。子どもが安心・安全を得られる環境で養育・支援を実施できるよう、リスクマネジメント体制を構築している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

保健給食委員会や危機管理委員会を中心に感染症の予防に関する勉強会を実施している。感染症予防に関するマニュアルを整備しており、研修や説明を通じて職員に周知徹底するとともに、定期的に見直しを行っている。これらの取り組みを実施することにより、感染症の予防や発生時の対応を適切に行っている。子どもの安全確保のための体制を整備しており、それが十全に機能している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

火災や地震等の各種対応マニュアルを整備し、対応策を定めている。災害発生時においても子どもへの養育・支援を継続できるよう3日分の食料の備蓄と管理が行われている。災害の発生を想定した研修や避難訓練を定期的実施し、子どもおよび職員の安否確認の方法を確立している。今後は、より具体的な事業継続計画を整備しそれを職員と共有することによって、災害発生時でも継続して養育・支援が実施できるよう一層の取り組みに期待したい。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

年間計画概要や個別の冊子に、養育・支援の標準的な実施方法や記録の記入方法および子どもの尊重・権利擁護・プライバシー保護に関する姿勢を明記している。子どもの自立支援計画の策定においては、それらを活用し職員によって養育・支援の方法に差異が生じないよう標準的な方法や考え方を確認し、管理者を含めた複数の職員が参画して策定している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

標準的な養育・支援の方法については、学園会にて養育・支援の実施状況を確認し、職員参画のもと、実施方法が適正か否か検証している。また、職員の意見や日々の支援状況および子どもの様子等を参考に、標準的な養育・支援の方法を修正する必要があるかを検討し、およびその際、自立支援計画の内容が反映されているかも検証する等、養育・支援の質の向上に努めており、標準的な養育・支援の方法について見直しをする仕組みが確立している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画は、主任児童指導員を中心として策定することとしており、担当職員が子どもの意見を聴取して具体的なニーズを把握して草案を作成したのち、ホームの他の職員や部門を横断した様々な関係職員が意見を出し合い策定している。特に支援の困難なケースにおいては、施設全体で積極的かつ適切な養育・支援が実施できるよう、全職員の意見を参考に実施方法を決定している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は、概ね年2回見直しを行うこととしているが、子どもの様子に応じて適宜変更している。緊急に変更する場合にはあらかじめ決められた手順で変更を行い、その都度学園会や連絡会で変更内容を周知している。今後は、計画どおりに養育・支援を実施していることを確認する仕組みを構築し、養育・支援の質の向上に関する課題を明確にすることで、より実効性の高い自立支援計画が策定されるよう期待したい。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

養育・支援の実施状況の記録にあたり、支援目標を確認しながら記録できる様式を施設内で統一して使用している。記録方法は、決められた方法によって記録できているか、関係職員が適宜確認している。必要な情報が適宜届くよう、各種会議にて情報共有を行っている。今後は、養育・支援の実施状況のよりスムーズな把握ができるよう、パソコン等電子機器を活用した記録のシステム化に期待したい。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもに関する記録は、運営母体の法人による文書管理規程に則って保管・廃棄を行っている。個人情報を含む記録の管理に関しては、不適切な利用や漏えいを行わないよう、USBの使用禁止等の具体的な内容をオリエンテーションで説明して周知を徹底している。子どもや保護者に対しても、子どもが安心して施設で生活できるよう、施設の個人情報保護の取り組みについて説明に努めている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護については、事業計画概要に児童憲章や法人職員のあり方等を明記することにより、子どもの権利擁護は施設の全ての業務において当然に最優先されるべきものであるとの考えを職員に表明しており、施設は諸会議で常に職員の理解を図り、全職員が共通してその考えを認識し実践している。子どもに対しても、権利ノートを活用して日々の生活と結びつけながら理解を促している。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

職員には、研修や勉強会を通じて子どもの権利に関する学習機会を確保させている。子どもに対しては、権利ノートの活用や話そう会にて自分自身の権利や周りの子どもにも同様に権利があることを、子どもの発達状況に応じて可能な限りわかりやすく伝えるよう努めている。日々の養育・支援を通して自身を大切にすることや他者を尊重する心が育まれるよう、施設全体で努めている。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもの入所背景や状態をよく分析・検討し、子どもに生き立ちや入所背景を伝える場合は事前に十分な検討を重ね、役割分担をして慎重に行うこととしている。子ども一人ひとりにアルバムを用意し、発達状況に応じて担当職員と整理することとしているが、施設としては十分な時間を確保できていないと感じている。今後は、成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返る機会を確保する等、より一層取り組まれることを期待したい。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

職員間で不適切なかかわりや子ども間の問題の早期発見と予防について共有し検証を行うことで、職員の規範意識を高めている。子どもへは、自分や周りが気持ち良く生活できる方法や困ったときに周りに伝える方法等を一緒に考える機会を確保することで意識向上に努めている。施設内での対応が困難な場合には、第三者委員会や外部の関係機関の協力を得て早期解決に取り組んでいる。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

子どもが共生の意識を持ち主体的に施設で生活できるよう、子どもを中心に各ホームでのルール作りを行った。施設での生活について子どもと職員が度々話し合う機会を設けている。日々の生活の中で子どもが抱いた問題や課題については、職員はもちろん子どもも他人事として捉えないよう、主体性を育む支援を心掛けている。金銭感覚については、職員が小遣いの収支管理を行い、年齢に応じた使い方を指導している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所前には、子どものそれまでの生活を十分に調べたうえで子どもの不安を軽減できるよう努めている。退所する子どもには、退所後の生活や困ったときの対処法、アフターケアの内容を十分に説明したり、退所後も定期的に子どもと連絡を取って状況を把握することとしている。子どもが継続して安定した生活を送ることのできるよう、子どもの不安の軽減を図りながら移行期の支援に努めている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口（担当者）があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所を控えた子どもには、退所後に起こりうる課題等ができる限り少なくなるよう、子どもと職員と一緒に退所後の生活をイメージしながら話し合う機会を設けているほか、外部のアフターケア事業を活用し、子どもの不安が少しでも軽減されるよう努めている。退所後の窓口となる施設の連絡先や、アフターケア事業の利用についても説明している。退所後最低一年間は退所者へ働きかけを行うこととし、その後も適宜退所者の状況を把握できるよう心掛けている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

職員は、子ども一人ひとりの理解を深め、特性や発達に応じて表出する課題を職員間で共有し、現状において最善の養育・支援を実施するよう心掛けている。子どもの担当職員以外の各種専門職員が役割に応じて子どもにかわり、施設全体で子ども一人ひとりの内面の理解に努めている。今後は取り組みの成果を確認するためにも利用者アンケートを活用して子どもたちとの信頼関係の把握に努められるよう期待したい。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

個別・年齢・ホーム毎等の複数の単位で実施する「話そう会」において、子ども同士や子どもと職員がよく話し合い職員が子どもの意向を把握することで、子どもの意思を尊重した養育・支援を実施している。今回実施した利用者アンケートの一部には、職員がいつも忙しそうで特に夜目覚めたときには近くに存在を感じられないときがあるという意見もみられたので、今後は職員配置の工夫や補充等により、夜間の子どもの安心感が高まるような取り組みに期待したい。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

職員は、子どもが自分でできることを増やしなが自信や自主性を育むよう、働きかけや見守りを行っている。また、子どもが困難やつまずきを感じたときは、主体的に問題を解決できるよう支援し、必要に応じてフォローしている。職員の配置については、子どもが起きる前から消灯後まで必ず職員が子どもの側にいるよう配慮している。施設全体で、子どもの力を信じ子どもが自ら判断し行動できるよう日々努めている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源（専門機関やボランティア等）が十分に活用されている。	○

【コメント】

活動計画は、子どもの年齢や発達状況に対応した養育・支援が実施できるよう策定し、ホーム単位での余暇活動計画は、子どもの意見や要望を可能な限り取り入れて策定している。子どもたちの学びや遊びに関するニーズは、日々のかかわりや話そう会によって把握するほか、学校との連絡会で情報交換を行い、子どものニーズに応えられない場合は丁寧に話をするよう努めている。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体健康（清潔、病気、事故等）について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	○

【コメント】

入所背景を鑑みると子どもが基本的な生活習慣を確立するよう支援することにはどうしても時間を要してしまうが、施設での生活に必要なルールを職員と一緒に考えることで子どもの社会的常識を培うよう支援している。職員は、子どもの地域行事への参加を推奨したり、自己の健康管理の指導や携帯電話・SNSの使用方法を話し合う時間を設ける等、子どもの発達状況に応じて様々な生活技能が習得できるよう努めている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですり食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気です、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

子どもの年齢や生活に応じて食事の提供時間や量・内容を調整し、子どもがおいしく適温で食べられるよう食事に配慮している。残食状況の把握や嗜好調査によって子どもの嗜好の把握に努め、誕生日に外食を行ったり、希望や季節行事に合わせて子どもと一緒に食事やおやつを作る機会を設けたりと、子どもがおいしく楽しみながら食事できるよう工夫している。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

職員は、子どもが清潔で自分の体に合ったものを常に着用できるよう、気候や生活場面・汚れに応じて着替えや衣服の管理の支援を行っている。衣服の購入にあたっては、季節毎に職員と一緒にすることで、子どもは自分の好みとサイズにあった衣服を選ぶことができている。職員は、洗濯やアイロンがけ、補修等の衣服の管理を子どもの生活の場で行い、子どもが衣習慣を習得できるよう配慮している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

清潔に保たれていて心地よい環境が子どもにとって当たり前となるよう、職員が中心となって子どもの生活の場の清掃を丁寧に行い、破損や故障した場所や物は早急に修繕するよう努めている。職員は、環境を整備する姿を見せたり、子どもの状態に応じて子どもと一緒に居室の片付けを行うことで、子どもに整理整頓や掃除の習慣が身につくよう支援している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

嘱託医による子どもの健康診断を年2回実施しているほか、職員が子どもの起床時の体調管理を日々注意して行うことで、子どもの健康管理に努めている。服薬については、医療機関と連携して服薬や薬歴の確認を行い、子どもが必要性を認識できるよう説明して服薬させている。職員は、子どもの一人ひとりの心身の健康を管理できるよう、学習したり情報を共有することにより、医療や健康に関する知識を深めるよう努めている。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

性教育について、職員間で一定の共通認識を持てるよう、児童相談所等関係機関の協力を得ながらマニュアルの整備や事例の検討会を実施し、慎重に対応することとしている。性教育の実施方法は、特別な機会を設けるだけでなく、日々のかかわりにおいて可能な限り自然に伝えるよう努め、年齢相応の健全な他者とのつき合いができるよう養育・支援を実施している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもの暴力・不適応行動について、職員は、日々のかかわりの中で子ども自身や子ども同士の関係性の変化を把握することで、早期発見と予防に努めている。子どもの暴力・不適応行動が発生した場合には、施設のすべての子どもに適切な対応ができるよう、施設内の対応のみならず児童相談所等の関係機関と連携し、子どもの状態の報告・相談を行い協力を得ている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

暴力・いじめ・差別が生じないよう、ホームで生活する子ども同士の相性や個性には十分に配慮し、必要に応じて随時生活グループの見直しを行っている。特別な配慮を必要とする子どもや子ども間の問題が発生した場合には、児童相談所に協力を仰ぎ、対応している。今後は、全職員が一丸となって暴力・いじめ・差別に取り組んでいる様子を子どもが感じられるような体制を整えることによって、子どもがより安心して生活できるようになることを期待したい。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理的ケアについて、特に必要だと判断した子どもに対し、心理対応職員が中心となって継続したケアを行うとともに必要に応じて児童相談所の心理担当者の協力を得ているが、子どもが心理的な面接を拒否する場合もあり、心理対応職員の負担が懸念される。職員間の連携を強化することで心理対応職員の負担が軽減され、子どもへの心理的ケアがより有効なものとなるよう、今後の取り組みに期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

静かに落ち着いて自主学習ができるよう、進学を控えた子どもに個別の居室を用意し、学習できる環境を確保している。可能な限り子ども一人ひとりの習熟度や希望を把握することで、学習塾や学習ボランティアを活用し、学力の向上に努めている。子どもによっては宿題や学校準備を職員と一緒にやり、子ども一人ひとりに応じた支援の方法を日々模索し職員間で共有している。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路について、子どもが主体的に考えられるよう、情報提供や日々の支援を行っている。進路の決定にあたっては、関係機関や保護者と情報を共有し、子どもが納得できる進路に進めるよう努めている。自立に向けて子どもが抱く不安を可能な限り取り除いていけるよう、丁寧な支援を心掛けている。施設の地理的要因から困難ではあるが、高校卒業後に進学した子どもについても、措置を延長して支援を継続することが可能になっている。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	c
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

自立支援の一環として、施設は高校生以上の子どものアルバイトを許可し、子どもは職員の補助のもとアルバイト先の開拓や相手先とのやり取り、実際に働く等の経験をしている。職場実習や体験は子どもの希望があれば支援を検討する方針だが、施設自ら積極的に実習先を開拓したり子どもに斡旋する体制とはなっていない。今後は、子どもの社会経験の拡大のため、アルバイトの他にも職場実習や職場体験といった選択肢が子どもに与えられるよう、さらなる取り組みに期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員や担当職員が中心となり、保護者へ子どもの様子や成長等を定期的に伝えている。保護者からの相談には決まった職員が応じることとし、毎月のお便りを配布して園の行事や学校での催しを伝える等、施設は家族との信頼関係を築けるよう取り組んでいる。子どもと家族の面会、外出、一時帰宅については、入所時に家族に文書と口頭で説明し、適切に実施している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

親子関係の再構築は、児童相談所と連携し親子関係改善の支援目標に従って親子交流のプロセスを慎重に組み立て、個々の状況や状態に応じて適切なペースで実行できるよう努めている。親子交流の前後では、保護者や子どもの様子を注意深く観察し丁寧に会話をすることで、関係改善に向けた支援の方策を随時検討し実施している。